

平成 28 年度第 1 回 瀬戸市地域公共交通会議 会議録

開催日時	平成 28 年 6 月 28 日（火） 午前 10 時 00 分～正午				
開催場所	パーティセと 4 階 マルチメディアルーム				
出席委員	19 名	欠席委員	5 名	傍聴人	13 名
会議概要	<p><b>1 議長挨拶</b></p> <p>地域公共交通会議は、平成 18 年の道路運送法の改正に基づき開催できるようになり、瀬戸市においても開催してきました。当時から 10 年が経過し、人口や土地利用、都市のあり方などは変化してきています。今回も新しい交通計画を定めていくことに関して議論していきますが、今後 10 年間どんなまちにすべきかということも含めしっかり議論していく必要があります。</p> <p>そこで、国土交通省中部運輸局愛知運輸支局杉本委員より「活発で良い議論ができる会議のために」についてご紹介いたします。</p> <p><b>「活発で良い議論ができる会議のために」について</b></p> <p>別紙資料に従って国土交通省中部運輸局愛知運輸支局杉本委員から説明</p> <p><b>(副議長)</b></p> <p>全国各地に地域公共交通会議があり、地域によっては議論が活発なところもあれば、議論が深まらないところもある。しかし、どの地域も公共交通に関する問題は深刻な状況にあり、地域の方々が前向きに意見を交わして、よりよい公共交通にしていくことが重要である。</p> <p><b>2 議事</b></p> <p><b>(1) 平成 27 年度瀬戸市地域公共交通会議事業報告について</b></p> <p>別紙資料 1 に従って事務局から説明</p> <p><b>(質疑応答)</b></p> <p><b>(委員)</b></p> <p>コミュニティバスの有料乗車率ほどの程度か。</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>運賃は 1 乗車 100 円であり、乳児(1 歳未満)は無料、幼児(1 歳以上 6 歳未満)で 6 歳以上の方に同伴される場合は無料、障がい者の方が半額であるため、利用される方の多くが有料となる。</p> <p><b>(委員)</b></p> <p>運行経費(P.5)について、前年度からの増減がわかるように比較すると、理解が深まると思う。利用者数(P.6)について、瀬戸北線は利用者数が多いものの減少している。特に、5 月、3 月に極端に減少していることについて、分析・対策を立てているか。</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>運行経費については、わかりやすい資料となるよう改善していく。</p> <p>利用者数については、5 月の利用者数減少はゴールデンウィークがあり休日が多かったことから、通勤や通学での利用が多い瀬戸北線などは利用者が減少したと考えている。また、全体の利用者数減少は、地域の方と会合の中で、私立高校のバスが品野地域等にも送迎に来るようになったことに起因するのではないか、という意見があった。通学状況についても、今後確認していきたい。</p>				

(議長)

データを提示するだけでは疑問点が残るため、分析することも必要である。次回から改善をお願いしたい。

(2) 平成 28 年度利用状況報告について

別紙資料 2 に従って事務局から説明

(質疑応答)

特になし

(3) 協議事項

ア 平成 27 年度瀬戸市地域公共交通会議決算について

別紙資料 3 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(委員)

歳出のうち「交通行動の変容を促進する施策関係」の決算額が 0 円となっていることについて、これは実施しなかったことによるものか、全体として経費を削減した結果なのか。

(事務局)

「交通行動の変容を促進する施策関係」として予算を 200 万円計上していたが執行しなかった。平成 28 年度は公共交通に関するアンケートを実施する予定である。

採決 <全会一致で承認>

イ 瀬戸市生活交通確保維持改善計画について

別紙資料 4 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(委員)

資料最終ページにある事後評価については、平成 27 年度第二回瀬戸市地域公共交通会議において自己評価し、国交省へ提出、2 月に中部運輸局の第三者評価委員会において二次評価を行う規定となっている。各地域の沿線協議会において運行内容を見直し、ルート変更等を実施し、成果を挙げており、非常に良い取り組みである。しかし、一方で利用者が増えていない部分もあるため、その改善に繋げるために二次評価を行っている。よく P D C A といった用法を用いるが、自己評価、二次評価、第三者評価委員会はチェックにあたり、チェックを受け、次のアクションに繋げてもらうためのプランを考える。こういったサイクルを継続し、より良い持続可能な公共交通に繋げてもらいたいと考えている。

(議長)

昔を思い出せば、瀬戸北線は名鉄バス以前の運行事業者が撤退するということで、名鉄バスが引き受け、補助金の交付を受けてきた。撤退により路線、補助金等を安易に受けているのではなく、なぜ瀬戸市に瀬戸北線が必要かということを実際に議論してきた。自分たちでしっかり考えて、本当に必要なものは何かということを考えていかないと国からの補助金は受けられない。今後も色々な地域での会合を大事にしてもらいたい。

採決 <全会一致で承認>

### 3 その他

#### (1) 公共交通に関する市民アンケートについて

別紙資料 5 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(委員)

アンケートお願い文中におけるバスの説明について、似た表現が複数記述されており読んでいて人にとって分かりづらいため、言い換えあるいは解説を入れるべきである。

(議長)

用語の説明について、独特の言葉については表現を配慮すべきである。

(委員)

アンケートのお願い文中のバス路線の運行経費について、路線バスとコミュニティバスそれぞれ分けて記載した方がわかりやすいと思う。

アンケート調査表の問 1 ⑤(P. 1) 自動車の利用状況について、原付・バイクは含まれないと考えることでよいか。また、移動手段の項目について、他の質問での原付・バイクの取り扱いにあわせて問 1 ⑦(P. 1)にも原付・バイクの選択肢をいれるべきではないか。

問 3 ②(P. 2) 目的地について、買物、通院であれば具体的な施設名を書くと思うが、通学や通勤で利用している場合は学校名や会社名を書くのか、あるいは学校とするのか、施設名をどのように書くのかわかりづらいと思う。

問 13(P. 7) 運賃の限度額について、選択肢 2 が 100 円（現行と同じ）となっているが、現行運賃 100 円はコミュニティバスであり路線バスとは異なる。路線バスも 100 円と間違えて捉えられないような記載方法にすべきである。

(事務局)

原付・バイクの取り扱いについては、確認し設問に整合するようにする。

問 3 ②目的地の施設名の記載については、回答者に配慮した形で記載の仕方を今一度再検討する。

問 13 について、路線バス、コミュニティバスで混同される可能性があるので、明確となるように修正する。

(副議長)

市民アンケートの目的は、今後考えている公共交通社会実験や公共交通網形成計画の基礎資料の収集だと思う。先ほどの運輸局の二次評価の説明において、瀬戸北線や赤津線が年々減少しているため、場合によっては今後路線が変わることがあるかもしれない。これからどういう公共交通を考えていくかにおいてこのアンケートはとても大事である。

他の地域の話であるが、利用者が減少を続ける路線バスがあり、交通状況の統計データを分析し、地域住民と相談して路線を変更したが、利用者数が激減してしまった。実際に利用している人たちにとって、大変利用しづらくなったことが原因であった。見直しのプロセス自体は間違っていなかったが、多くの人たちに意見を聞かなかったために失敗した事例がある。

会議で意見を交わすことは大事であり、統計で分析することも大事であるが、実際に利用している方や地域の方の意見を聞くことが必要である。今回のアンケートを多くの人に回答してもらい、意見を表示してもらうことが大事だと思う。そのあと、利用している方がどう考えているか、それ以外の今は利用していない人たちはどう考えているか分析してもらいたい。

(議長)

今回実施するアンケート結果は基礎的な情報となる。今後、公共交通社会実験にむけて、しっかり議論できることもあると思う。これから実施していくこと全てが一つとなり、最終的な形になると思う。まずは、基礎的な情報となるアンケートに真剣に取り組んでいく。

(委員)

問 12(P.7)公共交通の費用負担と維持のあり方について、アンケートの対象が15歳以上ということ踏まえもっとわかりやすい文章にしてもらいたい。実際に高校生やご年配の方が回答する際に、十分に理解してもらえるような内容とは言えないのではないか。

(議長)

運行水準や利用者負担などという専門的な用語も出てくるので、具体的によりわかりやすい内容となるよう検討したい。

(2) コミュニティ交通市民ワークショップについて

別紙資料6に従って事務局から説明

(質疑応答)

(委員)

5(2)ア近隣市のコミュニティバス紹介とあるが、どのような紹介がなされたのか。

(事務局)

主に運行形態について紹介した。瀬戸市では定時定路線で往復運行をしているが、今回紹介をした3市においては循環線で運行していることについて紹介した。また、瀬戸市ではジャンボタクシーを利用しているが、他市ではポンチョと呼ばれるバスや大型のバスで運行している状況について紹介した。運行日や運賃については、他市では定期券を発行している市、中学生以下や65歳以上といった一定条件において無料にしている市、免許返納にインセンティブを設けている市があることなどを紹介した。

(3) 「エコモビ推進表彰候補団体募集」について

別紙資料に従って愛知県振興部交通対策課石屋委員(代理)から説明。

4 閉会

以上